



令和元(2019)年度 社会的孤立の増加への対応

少子高齢化や核家族化等により、単独世帯(特に高齢者の単独世帯)が増加すると推計されており、孤立死(孤独死)が大きな社会問題となっています。孤独死(誰にも看取られることなく亡くなったあとに発見される死)を身近な問題と感じる人の割合は、60歳以上の一人暮らしでは4割を越えると報告されています(平成30年版高齢社会白書)。本研修では、孤立死(孤独死)が起こった時、市町村がどう対応するか考えるとともに、その予防として社会的孤立状態に陥る高齢者が少なくなるような地域づくりをどのように進めていくか考えます。

研修の内容

- ① 孤立死(孤独死)の現状、行政の役割と法的限界を知る
- ② 孤立死(孤独死)が起こった場合の早期発見、対応の仕組みを考える
- ③ 特に高齢者の社会的孤立が起こりにくい地域づくりを考える

開催要領

日程

令和元(2019)年10月23日(水)～10月25日(金) (3日間)

場所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象

住民の孤立死(孤独死)対応や社会的孤立の予防にあたる市区町村、社会福祉協議会、NPO等の職員の皆様

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰府はできませんのでご注意ください。

募集人数

30人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費

10,500円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食3回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。
なお、事前準備・事前学習にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和元年9月6日(金)まで

申込方法

JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。

「Web申込み」が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。

※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)に掲載しております。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

●問い合わせ先●

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和元年
10月
23日(水)

- 11:00～ **入寮受付・昼食**
- 12:30～ **開講・オリエンテーション**
- 13:00～17:00 **講義 社会的孤立の増加と自治体の対応**
淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科 教授 結城 康博 氏
少子高齢化や核家族化等により単独世帯が増えており、特に高齢者の単独世帯において孤立死(孤独死)に対する不安が大きくなっています。この時間は、全国的に孤立死(孤独死)等がどのような状況にあるか、現状と課題をご講義いただきます。また、孤立死(孤独死)が起きないように、また、起こってしまった際にできるだけ早期に発見するための市町村の役割等について、グループ討議を交えて考えます。
- 17:30～ **交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和元年
10月
24日(木)

- 9:25～12:00 **講義 孤立死(孤独死)の法的対応**
土井法律事務所 弁護士 土井 裕明 氏
身寄りがなく孤立死(孤独死)された場合、実際に、市町村職員がどのように対応すべきか、その対応事例や、法的課題等についてお話しいただきます。
- 13:00～14:10 **講義 孤立しない地域づくり～自治体と地域の連携～**
早稲田大学文学学術院 教授 石田 光規 氏
孤立死(孤独死)が起りにくい地域づくりを考えるにあたっては、地域特性を細かく分析して、その地域にあった取り組みを進める必要があります。この時間は、地域特性をどのように分析して施策を考えていくかお話しいただきます。
- 14:25～15:15 **事例紹介 孤立しない地域づくり①**
兵庫県芦屋市福祉部地域福祉課 地域共生推進担当課長 吉川 里香 氏
コーディネーター:早稲田大学文学学術院 教授 石田 光規 氏
社会的孤立を防ぐため、芦屋市では「トータルサポート」の仕組みによる府内連携の強化に取り組んでおられます。制度の狭間にある事案等に対する、保健師を中心とした府内連携と、関係機関や地域等と協力した地域づくりについて、その取り組み事例をお話しいただきます。
- 15:30～16:20 **事例紹介 孤立しない地域づくり②**
自治型福祉NPO 磯長台の福祉を考えるつどい 代表 佐藤 貞良 氏
コーディネーター:早稲田大学文学学術院 教授 石田 光規 氏
大阪府太子町で、338世帯の磯長台地区の自治会を単位に、住民自治の発展を目指して活動を続けておられます。自治会の任意組織として住民の孤立防止に取り組んでこられました。住民同士の繋がりづくりの工夫や困難、課題等、その取り組み事例をお話しいただきます。
- 16:20～17:00 **演習 質疑応答**
兵庫県芦屋市福祉部地域福祉課 地域共生推進担当課長 吉川 里香 氏
自治型福祉NPO 磯長台の福祉を考えるつどい 代表 佐藤 貞良 氏
コーディネーター:早稲田大学文学学術院 教授 石田 光規 氏
質疑応答により、事例紹介の内容についてさらに理解を深めます。

令和元年
10月
25日(金)

- 9:25～12:00 **演習**
早稲田大学文学学術院 教授 石田 光規 氏
受講者の皆様の地域データを用いて、その特性を各自で分析し、グループで共有します。その上で、その地域特性に合った社会的孤立を防ぐ地域づくりについて検討していきます。
- 13:00～14:10 **事例紹介 自治体の終活支援**
神奈川県横須賀市福祉部 福祉専門官 北見 万幸 氏
独居高齢者が増え、引き取り手のない遺骨の増加も課題となる中、「最期の支援」が問われる時代となっています。横須賀市では、市民が倒れた後も、その意思が完遂できるよう、「エンディングプラン・サポート事業」と「私の終活登録事業」が実施されています。地域コミュニティや様々な民業も巻き込んだ「尊厳」を守るために2つの取り組みを紹介いただきます。なお、今年は新たに引きこもり支援についても、その実践をお話しいただき、新しい課題にいかに挑戦してきたかお話しいただきます。
- 14:10～14:40 **ふりかえり、研修アンケート記入、閉講**